

## 資料

## アンケート調査結果（抜粋）

### 【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（はつらつ度アンケート調査）】

#### 1. 調査目的

要介護状態になる前の高齢者の生活状況を把握することで、地域の課題を特定し、現行の介護予防・日常生活支援総合事業を評価するとともに、地域の課題に応じた健康づくりや介護予防事業の検討を行い、舞鶴市第8期高齢者保健福祉計画の策定に活かす。また、筑波大学及び富山県立大学と共同で進める介護予防に関する調査研究事業の資料としても活用する。

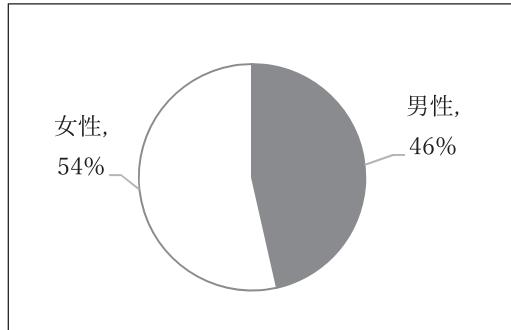
#### 2. 実施概要

対象者	配布数	回収数	回収率	調査時期
65歳以上の市民のうち、要介護1～5の認定を受けていない者	21,532人	10,937人	50.8%	令和2年 1月
内訳	65歳以上の市民	19,941人	10,167人	
	65歳以上の市民のうち要支援認定者	1,591人	770人	

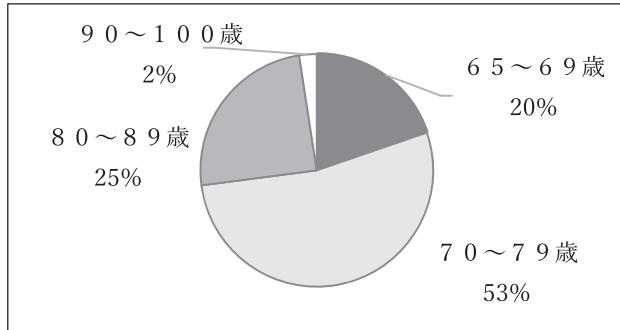
#### 3. 調査結果 一般高齢者 10,167人の結果

##### (1) 属性

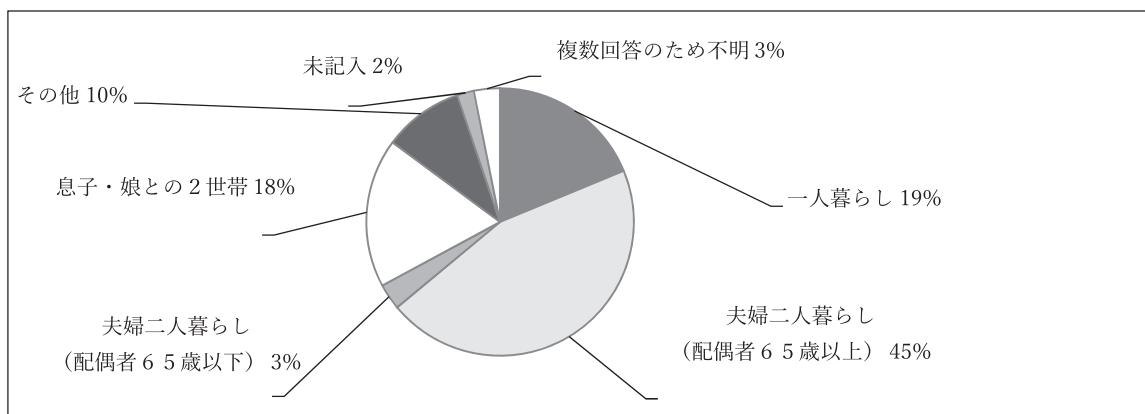
[性別]



[年齢]

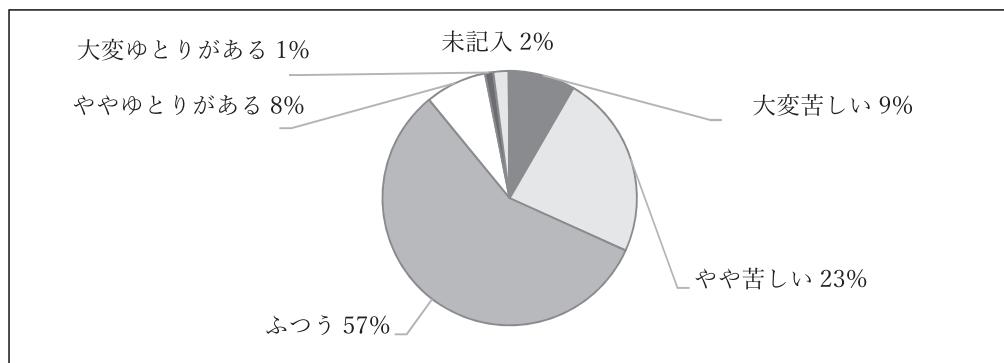


##### (2) 家族構成



独居と高齢者夫婦を合わせると 64% を占め、高齢者世帯が全体の 6 割となっている。

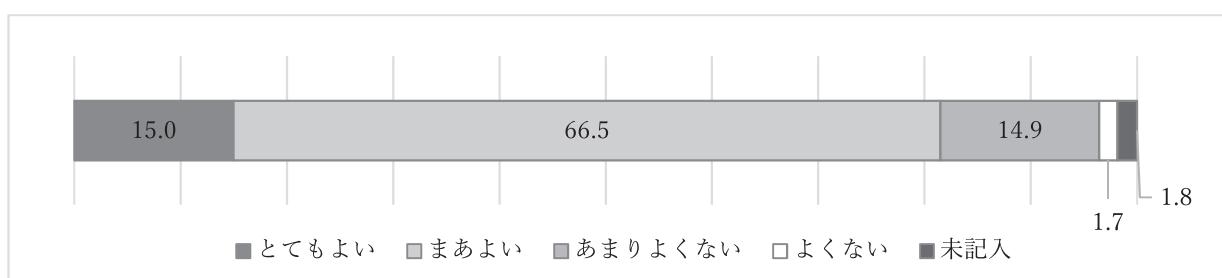
### (3) 経済状況



経済状況は、「ふつう」が5割を超えており、「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせると3割を超えている。

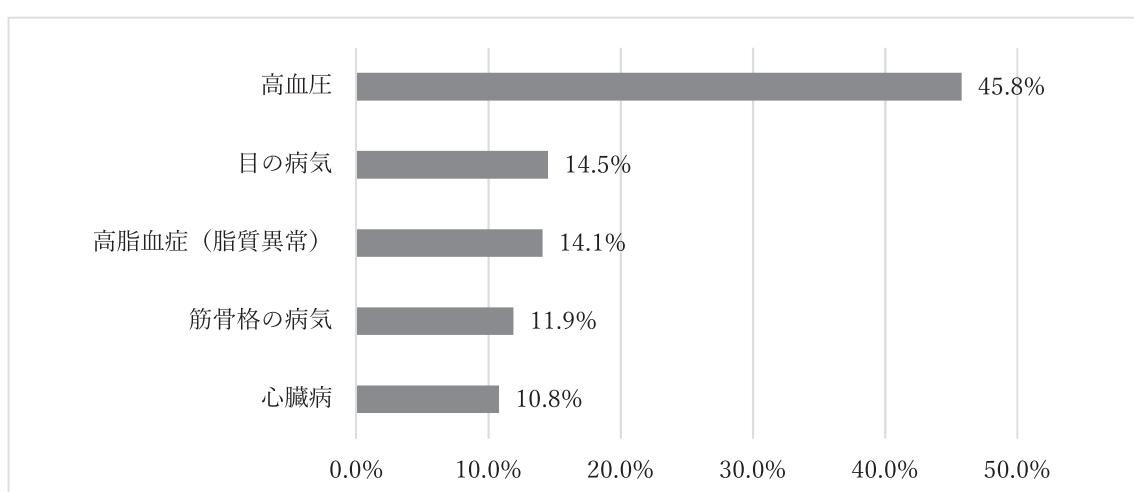
### (4) 健康について

[主観的健康観]



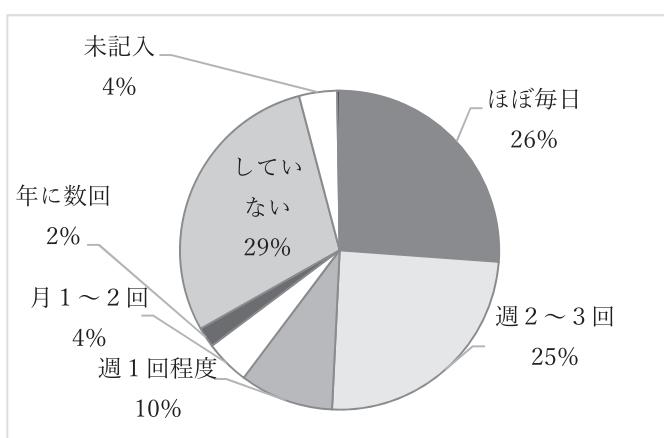
主観的な健康観は「よい」と感じている人が81.5%、「よくない」と感じている人が16.6%となっている。

[治療中又は後遺症のある病気（複数回答）] 上位5項目

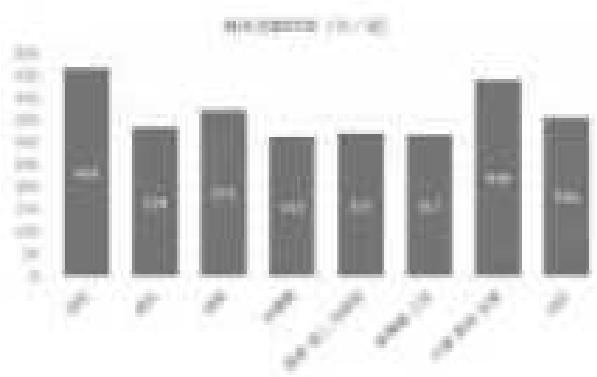


治療中又は後遺症のある病気としては、「高血圧」が最も多く、次いで「目の病気」「高脂血症」「筋骨格の病気」「心臓病」の順となっていた。

### (5) 外出の状況（健康のために外出する頻度）



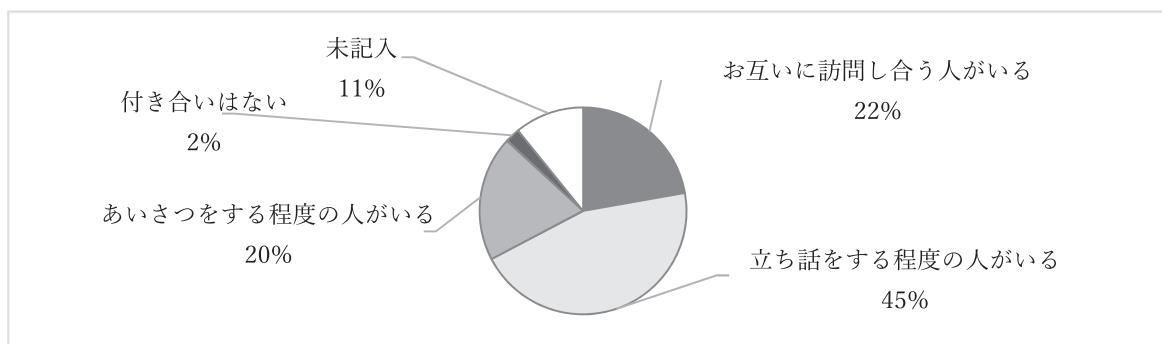
身体活動量



健康のために外出する頻度は、「週1回以上」が60%以上を占めている。日常生活圏域毎の身体活動量をみると、「加佐」と「大浦・朝来・志楽」で高く、高齢になっても農作業や漁業等役割のある圏域で活動量が多くなっていることがわかる。

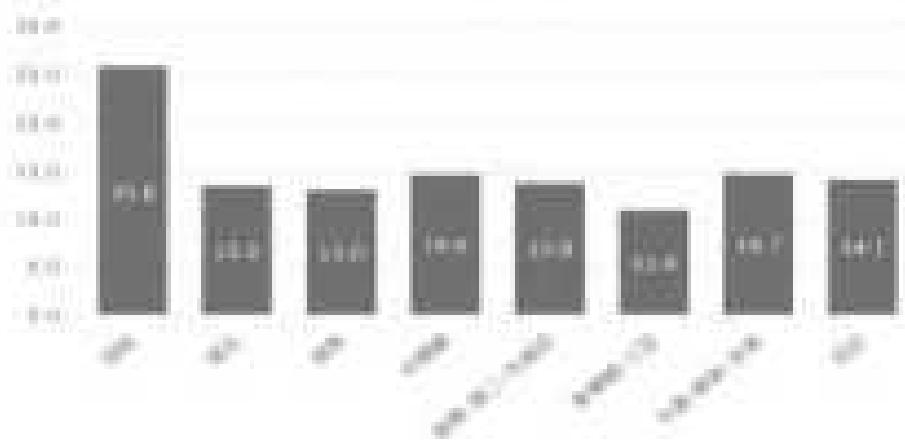
### (6) 社会的交流

[近所の方とどの程度付き合っているか]



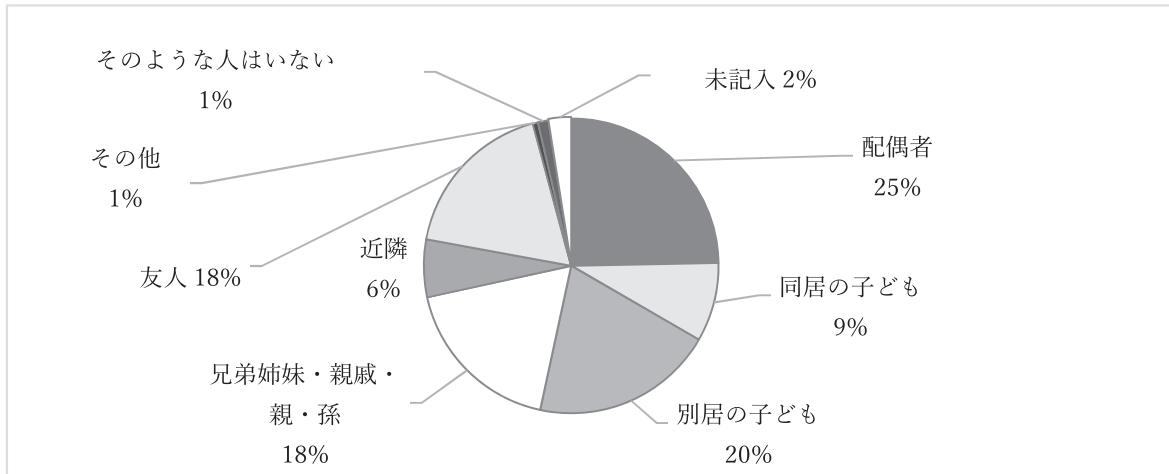
近所の方とどの程度付き合っているかについては「訪問し合う」「立ち話をする」「あいさつをする程度」など様々ではあるが、ほとんどの人が何らかの付き合いがあると答えていた。

[通いの場への参加率]



通いの場への参加率は、加佐圏域で特に多い。舞鶴市は、全国の他自治体と比較すると、通いの場の設置率・参加率ともに高い傾向にあるが、今後も、通いの場の継続支援に取り組み、社会的交流の場を増やしていく必要がある。

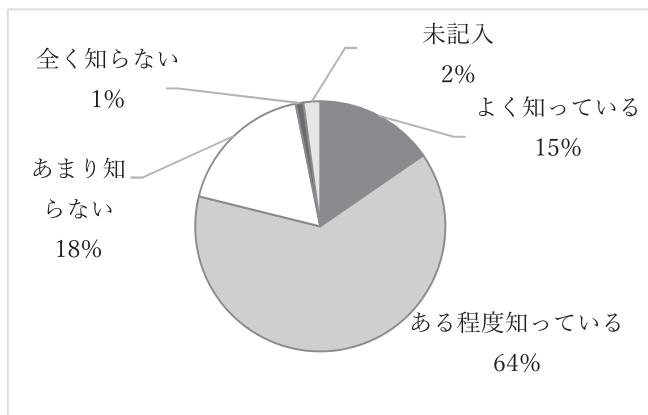
#### (7) 助け合い（心配事や愚痴を聞いてくれる人）



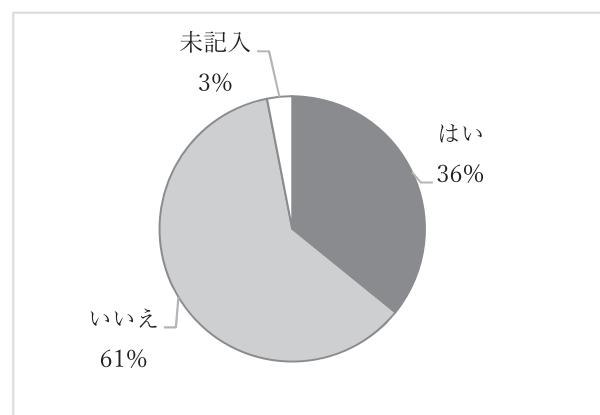
心配事や愚痴を聞いてくれる人としては、配偶者・子ども・親戚などを合わせると、7割を占めている。親族以外では、友人が18%、近隣が6%となっている。また、1%とわずかではあるが、「そのような人はいない」と答えており、相談窓口の周知に加え、地域コミュニティの再構築も課題である。

#### (8) 認知症について

[認知症についてどの程度知っていますか]



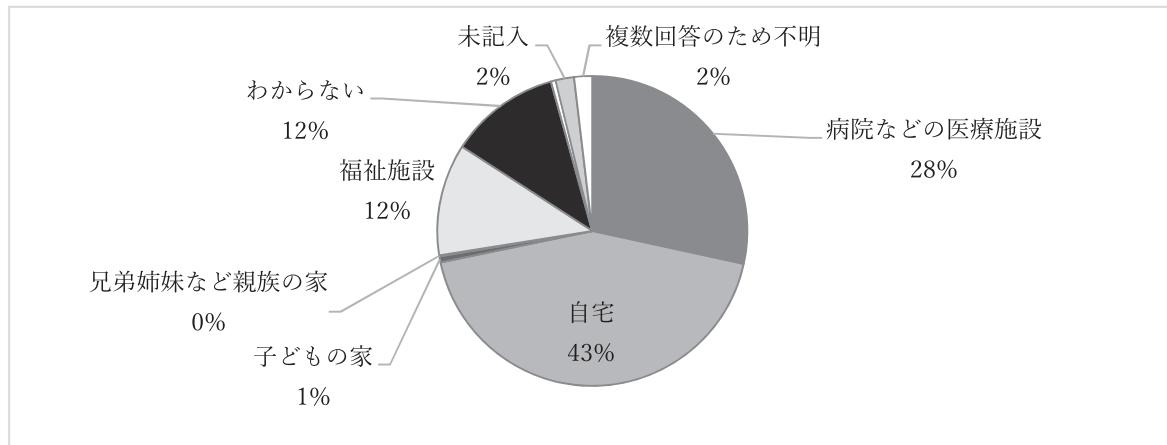
[認知症に関する相談窓口を知っていますか]



認知症について、「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した人は8割あるが、相談窓口については「知らない」と回答した人が6割となっている。認知症の早期支援のためにも、相談窓口を広く周知することが重要である。

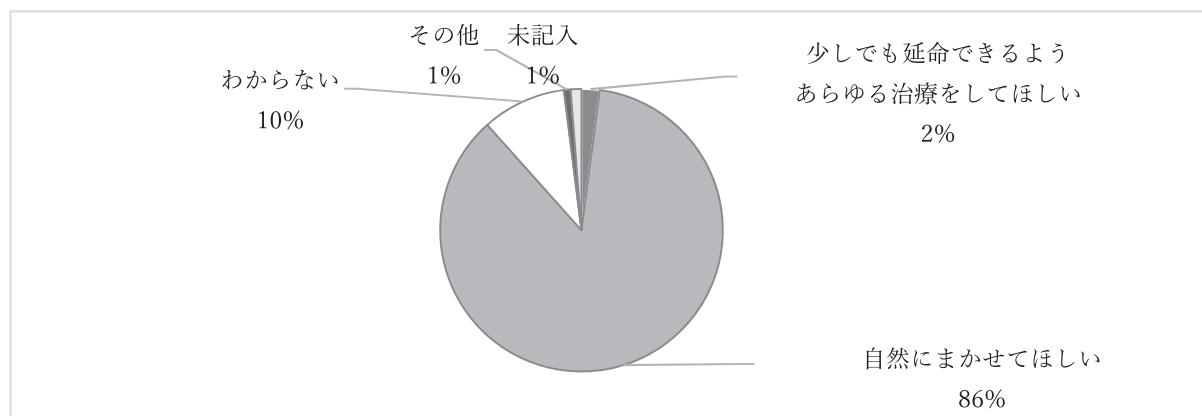
## (9) これからの生活

[がんや脳梗塞などにより医療と介護が同時に必要になった場合、どこで暮らしたいか。]



医療と介護が必要になったときに暮らしたい場所としては、「自宅」と回答した人が最も多く、43%を占めた。次いで医療施設、福祉施設という結果となっている。

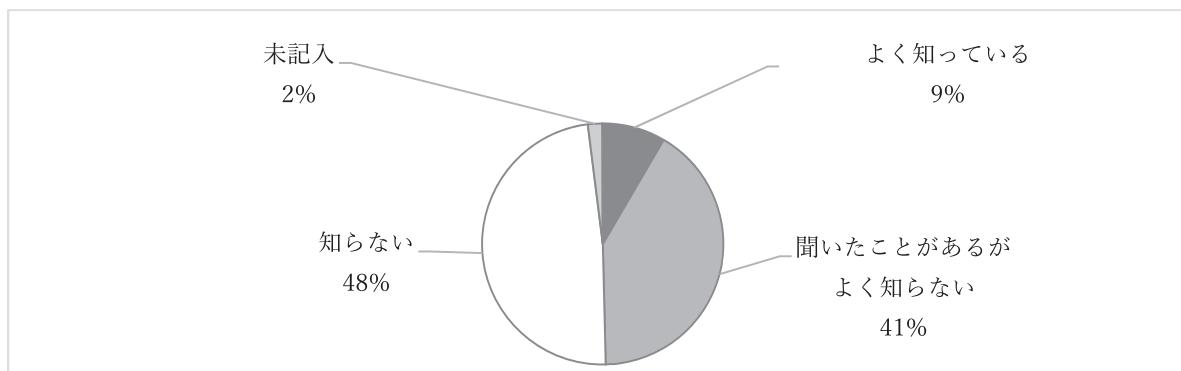
[延命治療について]



延命治療については、「自然にまかせてほしい」と回答した人が86%と多く、積極的な延命は望まない人が多かった。

## (10) 人生会議について

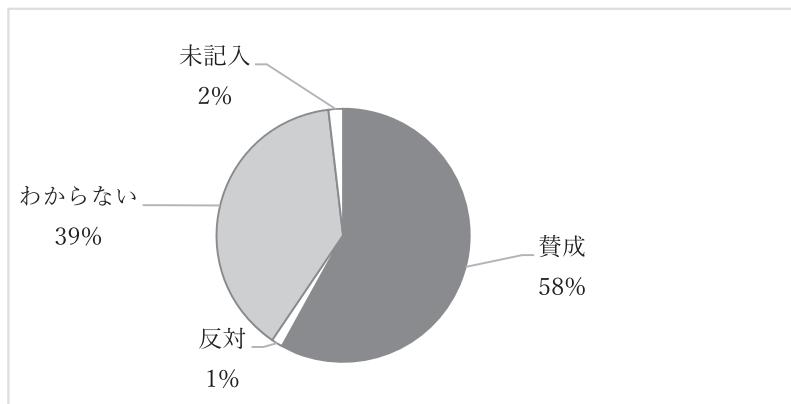
[人生会議について知っていますか。]



人生会議（ACP）<sup>1</sup>については、「よく知っている」「聞いたことはあるがよく知らない」と「知らない」が半々という結果であり、今後、啓発に力を入れていく必要がある。

#### (11) 老い支度について

[自分が意思決定できなくなったときに備えて、どのような医療・療養・ケアを受けたいか、などを記載した書面をあらかじめ作成しておくことについてどう思いますか。]



意思決定できなくなった時の備えとして、老い支度の準備をすることについて、6割弱が「賛成」と回答している反面、約4割が「わからない」と回答しており、今後も老い支度についての周知・啓発を行っていく必要がある。

<sup>1</sup> 人生会議（ACP）：アドバンス・ケア・プランニング

万が一のときに備えて、大切にしていることや望み、どのような医療・療養を望んでいるかについて、自ら考え、家族や医療・ケアチームなど信頼する人たちと話し合うこと。